薬学部の３つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について

創薬科学科

１．学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

人々の健康を維持するためには、癌をはじめとする難病や新種のウイルスなどの新興疾患に対する治療薬や予防薬の開発が必要である。このためには、生命のメカニズムの解明や障害因子の特定、並びにそれらの情報を基に副作用の少ない標的に特異的に働く理想的な医薬品の開発が欠かせない。薬を創る、いわゆる創薬産業は我が国で発展が期待される次世代産業の一つと捉えられており、これを育成・発展させることが望まれている。

薬学部創薬科学科は、創薬研究に関連する教育を強化し進めることで、最先端の創薬研究に対応できる高い能力を持った、国際的に活躍できる研究者や指導者を養成することを目的とする。そして、創薬研究の将来を担う指導者、教育者、研究者へと発展可能な人材に、学士（創薬科学）の学位を授与する。本学部（創薬科学科）において学んだ学生は、卒業に際して、以下の目標に到達することが期待される。

学修目標

A. 主体的な学び・協働

A-1. 専門知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

A-2. 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

A-3. プレゼンテーション及び討論の基礎能力を備えている。

B. 知識・理解の習得（知識・理解）

B-1. 化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学及び医療系薬学を基盤とした基礎的な知識を理解し、論理的に思考できる。

B-2. 医薬品の研究開発を推進するための基本的な知識を理解している。

C. 知識・理解の応用（適用・分析）

C-1. 国際的に活躍できる基礎的な能力を持っている。

C-2. 将来、指導的な立場で活躍できるよう、的確で総合的な判断力と課題を探究する基礎的な能力を習得している。

D. 新しい知見の創出（評価・創造）

D-1. 創薬研究に関わる課題の探究や問題を解決する基礎的な能力を持っている。

D-2. 自ら主体的に創薬研究を遂行するための基礎能力を持っている。

E. 知識・理解の実践的場面での活用（実践）

E-1. 創薬研究者として必要な基本的な研究技術を実践できる。

E-2. 他者と協調して研究を実施できる基本的な技能や態度を修得している。

２．教育課程の編成・実施について基本方針【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

本学部創薬科学科の教育課程の特色は、人体や病気に関する化学や生物などの基礎科目を人体・病気・薬と関連付けて学ぶことである。

【カリキュラムの基本構造】

4 年の教育課程のうち３年前半までを基礎としての教育を行い、3 年後半から 4 年次までは応用的能力を養うために卒業研究を行う。

1 年次には人文科学と自然科学を含む幅広い教養教育を享受する。

国際的に活躍する能力を養うために、異文化や言語文化に関する教養教育を行うと共に、英語による成果発表のための演習を実施する。

2 年次から 3 年前半までの専門課程では、多様化・高度化する創薬科学や生命科学などに対応できる基礎的能力を獲得するため、創薬科学に関連した化学系、物理系、生物系、環境系および医療系科目を受講し、薬学に関する専門知識を涵養する。

3 年後半から 4 年次に行う卒業研究では、研究室に所属して、経験豊富な教員の指導の下で、個別に最先端研究に取り組み問題を解決する能力の向上を図る。

【カリキュラムの概要】

アクティブ・ラーニングを重視する科目、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目、ライフスキルの向上を目指す科目、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働（A-1,2,3)」を培う。

そのうえで、学科必修科目及び選択科目を通して、以下の通り、学修目標の達成に向けた学修を進める。

創薬科学科への導入専門科目、薬学中核専門科目・薬学応用専門科目である化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、医療系薬学などに関する授業項目を通して、「知識・理解の習得（知識・理解）(B-1,2)」を目指す。さらに、薬学基礎実習などに関する授業科目を通して、「知識・理解の応用（適用・分析）(C-1,2)」を育成する。また、演習系科目などに関する授業科目を通して、さらに、総合的な授業科目である薬学特別実習では、各授業科目を通して習得された知識・能力の体系化を図るとともに、問題解決能力及び問題発見能力を鍛え、「新しい知見の創出（評価・創造）(D-1,2)」や薬学人としての基礎的な能力、態度を鍛え、「知識・理解の実践的場面での活用（実践）(E-1,2)」に繋ぐ。

【教育指導体制】

創薬科学科では 3 年生前半までは、講義と実習・演習が中心の教育を行う。社会科学科目や言語文化科目などの教養関連科目を除き、薬学に関連する専門教育は創薬科

学科および臨床薬学科の教員が協力して全員で行う。3 年後半以降から 4 年次に行う卒業研究（薬学特別実習）は、学生が所属する研究分野の教員による個別指導によって行う。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

カリキュラムは、三つの分節に区分して運用する。第 1 分節（1 年～2 年前半）は、基盤的な学びの姿勢と知識・理解を習得する「導入・基礎」期、第 2 分節（2 年後半～3 年前半）は発展的な知識・理解およびその活用力を習得する「発展」期、第 3 分節（3 年後半～4 年）は知識・能力の統合と新しい知識の創出に取り組む「統合」期と位置づける。

当該分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「カリキュラム検討委員会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

・「導入・基礎」期の基礎学力評価：導入期に学力調査を実施して学生の基礎学力を評価し、その後、基礎科目の習得度を成績分布や授業アンケートを通じて確認する。
・「発展」期の評価：専攻教育科目を中心とした重点科目を設定し、各科目の中で焦点化した知識・能力の習得度を、成績分布や授業アンケートを通じて確認する。
・「統合」期の評価：学びの集大成としての薬学特別実習等を、学修目標達成度評価表に基づいて審査する。

３．入学者受け入れの方針【アドミッション・ポリシー】

求める学生像

21 世紀の人々の健康を維持するためには、癌をはじめとする難病や新種のウイルスなどによる新興疾患に対する治療薬や予防薬の開発が必要である。このためには、生命のメカニズムの解明や障害因子の特定、並びにそれらの情報を基に副作用の少ない標的に特異的に働く理想的な医薬品の開発が必要である。九州大学薬学部はこれまでも創薬研究に大きく貢献してきた。創薬科学科は、この創薬研究に関連する教育をさらに強化し、最先端の創薬研究に対応できる高い能力を持つ国際的に活躍できる研究者や指導者の養成を目指している。

創薬科学科では、薬を科学し創り出していく上で基礎となる化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、環境系薬学および医療系薬学を相互に関連付けて幅広く履修し、それらに関する高度な知識・技術を修得する。さらにこれらの幅広い学問分野を修めた上で、得意な専門分野に精通した人材の育成を目標に教育を行う。研究者としてはそのような知識を修得するのみならず、さらに問題を見出し解決する能力が必要となる。そのため本学科ではこのような問題発見・解決能力を養うために種々のプログラムを用いた教育を

行う。またそのような能力の向上・強化には大学院修士課程や博士後期課程での学習や研究が必要であるため、創薬科学科では大学院への進学を前提としたカリキュラムを組んでいる。

以上のような目的のため、下記の条件に合う学生を求めている。

・ 薬を科学し創ることに関する研究に対して強い意欲があり、研究者や指導者として育つ素養がある。
・ 高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を持つとともに、理科科目（化学、生物および物理）に対して強い興味がある。
・将来の国際的な活躍のための基盤となりうる十分な英語の基礎学力をもつ。

求める学生像と学力３要素との関係

・ **知識・技能**：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に、化学系、物理系、生物系、医療系の基礎学問の習得が必要であるため、理科科目に対する強い興味と十分な素養、および、基本的な英語力を持っていること。
・ **思考力・判断力・表現力等の能力**：知識を活用し、多角的に考え、客観的に評価できる素養を持っていること。さらに、創造力、指導力、国際性を磨くため積極的に努力する素養を持っていること。
・**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**：薬を科学し創ることに関する研究に対する関心。理科科目(化学、生物および物理)に対する興味。自分の考えを持ち、的確にそれを伝え、さらに異なる考えも尊重してコミュニケーションを積極的に行う素養を持っていること。

入学者選抜方法との関係

	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力等の能力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜（前期）	大学入学共通テスト 調査書 個別学力検査	個別学力検査	調査書
一般選抜（後期）	大学入学共通テスト 調査書	個人面接	調査書 個人面接